

令和3年度 奈良県立五條高等学校（全日制）学校評価総括表

<p>学校経営方針</p>	<p>「行きたい」「行かせたい」「来てよかった」と思える魅力と活力ある学校づくり</p> <p>(1) 教職員と生徒が互いのコミュニケーション能力を高め、共有化されたビジョンのもとで充実した教育活動を展開し、生徒一人一人の自己実現（本人のための教育推進）を目指すとともに、校訓である「質実・剛健・礼節」の体得を図ることを支援する。 (2) 「学ぶ力」「生きる力」（知育・徳育・体育）の充実により今日的教育課題を主体的に解決できる力を培うとともに、「社会に貢献する自立した人材」の育成を目指し、地域や保護者から信頼される「魅力と特色ある学校づくり」に努める。 (3) 「確かな学力、豊かな人間性、たくましい心身を備えた生徒」の育成を中核に据え、「夢や希望の実現に向け、様々な課題に積極的に挑戦する生徒」「自他を尊び、地域・社会に貢献する自立した生徒」の育成に努める。 (4) コミュニティ・スクールとして地域と共にある学校づくりの更なる推進を目指し、保護者や地域住民等が本校の学校運営に参画し、連携を促進することにより、互いの信頼関係を深め、協力して学校運営の改善及び生徒の健全な育成に取り組む。</p>	<p>総合評価</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>			
<p>前年度の成果と課題</p>	<p>これまで、生徒の実態把握に努めながら、充実した施設設備を最大限に活用した取組を進め、『学校の魅力』を高めて『入学希望生徒の確保』に主眼をおき、学校の活性化に取り組んできた。しかし、地元五條市をはじめとする圏域の少子化が進み、今後の状況は見通しにくくなっている。 平成19年度からスタートした「まなびの森コース」については、一定の成果を上げているが、魅力あるコースづくりを更に推進するため、令和元年度より「まなび」NEXT10プランをスタートさせた。4つの資質能力を明確化し、主体的・対話的で深い学びを通して外部機関とも連携しながら高度な教育活動を行っている。 導入から15年になるスクールバスの運行をはじめ、教育相談スーパーバイザーの単独配置による教育相談体制の構築、学校運営協議会の設置によるコミュニティ・スクールの推進及びグラウンド人工芝生化による施設・設備の充実等、将来を見据えた学校改革に向けて積極的な取組を進めている。今後とも、現状の課題を整理・分析しながら、生徒・保護者の期待に応えられるよう、更なる改善・充実を図らなければならない。</p>				
<p>本年度の重点目標</p> <p>具体的目標 ○主な具体的方策（担当）</p>	<p>評価の指標等</p>	<p>自己評価</p>	<p>成果と課題</p>	<p>改善方策等</p>	<p>学校関係者評価</p>
<p>1 確かな学力の育成 －「知」の育成</p> <p>①わかる授業の展開（授業力の向上） ○ 学習活動の工夫を図る。（教務部）</p> <p>②「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善 ○ 授業と評価の改善、指導力向上を推進する。（教務部） ○ 読書活動の活性化を図る。（文化図書部）</p> <p>③進路保障に関わる取組の充実 ○ 計画的・系統的な進路指導を行う。（進路指導部） ○ 望ましい勤労観、職業観を身に付けさせる。（進路指導部） ○ 生徒一人一人の進路の実現に向けて、明確な目的意識をもって学習に取り組ませる。（進路指導部）</p>	<p>・生徒アンケート「五條高校で行われている授業や課題、小テスト等に取り組むことで、うまく学習を進めることができている」 本年度<目標:70%以上></p> <p>・生徒アンケート「五條高校では授業の方法が自分に適していて、内容がよく理解できそうである」 本年度<目標:70%以上></p> <p>・保護者アンケート「五條高校で行われている授業の内容や進め方に満足している」 本年度<目標:70%以上></p> <p>・授業アンケートにおいて、1学期末の評価より2学期末の評価が向上した教員の割合を増やす。 本年度<目標:70%以上></p> <p>・集会、説明会等の実施 本年度<目標:10回以上></p> <p>・上記実施状況について、ホームページによる情報発信 本年度<目標:10回以上></p> <p>・生徒アンケート(第3学年)「自分の希望する進路実現ができた」 令和2年度93.3%(分母:進路決定者)→本年度<目標:90%以上></p> <p>・生徒アンケート(全学年)「五條高校では、生徒一人一人の進路に応じて、丁寧な指導が行われている」 令和2年度 81.6% → 本年度<目標:85%以上></p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>・生徒アンケート「うまく学習を進めることができている」が76.4%、「内容がよく理解できそうである」が74.3%（1学期末）。 ・保護者アンケート「授業の内容や進め方に満足している」80.6%（2学期末）。 ・3項目とも目標を達成した。 ・授業アンケートにおいて、1学期末の評価より2学期末の評価が向上した教員の割合が76.0%であった。 ・一部の授業で習熟度別・少人数指導を導入しているが、生徒の多様化・学習指導要領の変化に対応するため、更なる授業改善を含めた工夫も必要である。</p> <p>・例年学級文庫を各クラスに設置しているが、感染防止のため、今年度も本は各自で用意することとした。読書週間の初日や読書HR時には貸出が集中し、貸出業務が時間内に間に合わないことがあった。 ・五條市立図書館とのコラボで、合同展示を実施した。</p> <p>・校内の集会、説明会、講習会等を合わせて進学7回と就職5回実施した。校外の進学説明会は、オンラインや実施されても規模が縮小された。冬のインターンシップに5名が参加した。 ・進路行事等についての情報発信が不十分であった。 ・3年生で「希望する進路実現ができた」生徒は96.0%であった。 ・「丁寧な進路指導が行われている」は85.8%であり目標を達成することができた。</p>	<p>・生徒・保護者の授業満足度を向上させるため、身に付けさせたい力を明確にし、更に授業改善に取り組む。 ・生徒の進路実現を念頭におき、生徒の主体的な学びにつながる授業展開、課題、小テスト等、学力養成の方策を各教科で検討する。また、新学習指導要領やBYODに備え、研究を重ねる。 ・本校の学習活動について、ホームページ等を通じて保護者に周知する。</p> <p>・春期休業中に課している読書感想文に苦勞している生徒が増えている。書くことが苦にならないよう読書量を増やす指導を継続する。</p> <p>・計画的、系統的な進路指導を行うために「夢の扉」を活用する ・進路カルテや調査を利用して生徒の進路志望の把握に努めることで、集会や説明会の内容を検討する。 ・進路行事終了後、速やかに情報発信できるように部内で連携をとる。</p>	<p>数値目標を掲げて教育目標を追求しているのは素晴らしいことだと思う。</p> <p>サッカーや柔道など専門の指導者のいる部活動については生徒が集まってくだろうが、多数にはならない。中学生にアピールするのは進学実績だと思う。まなびの森コースにこだわるわけではないが、このコースも含めた全体の受験学力の底上げをお願いしたい。</p> <p>来年度の定員割れを防ぐための手立てを検討することが必要である。</p>
<p>2 豊かな人間性の育成 －「徳」の育成</p>			<p>・本年度は、例年実施している体育行事を新型コロナウイルス感染症</p>	<p>・来年度においても新型コロナウイルス感染症に関して</p>	

<p>①学校行事の精選と内容の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体育活動に積極的に取り組む姿勢を養う。(保健体育部) ○ 文化行事の充実を図る。(文化図書部) ○ 国際理解を促進する。(総務部) <p>②生徒及び保護者への啓発の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒一人一人の人権意識を高める。(人権教育部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事の参加率 <u>本年度<目標:98%以上></u> ・今年度は、コロナ禍での新しい形の文化祭を検討し実施する。 ・ガートン校と協力して、オンライン交流・協働学習を行う。<u>本年度<目標:1回以上></u> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の「人権を確かめあう日」に生徒・保護者向けの啓発文書を発行する。<u>本年度<目標:10回以上></u> 	<p>B A A A</p>	<p>の拡大防止のため球技大会、体育大会は学年別で実施した。また、耐寒金剛登山も形を変えて、耐寒ウォーキングと銘打って実施しようとしたが、オミクロン株拡大のため、中止せざるを得なかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年別で実施した球技大会と体育大会での参加率は<u>97.5%</u>と盛り上がった大会となった。 <ul style="list-style-type: none"> ・コロナウィルスの感染防止のため、例年とは違う文化祭となった。体育館行事には3年生のみ入場し、他学年は教室でカメラ中継による視聴を行った。また2年生はクラス動画を作りオンラインで各教室に配信した。3年生模擬店は物品販売に改め、学年別での参加としたが、制約のある中で生徒は有意義な時間を過ごすことができた。 ・カルタ大会はゲームソフトを使つての競技とした。 <ul style="list-style-type: none"> ・夏期休業中にESS部の活動として、2学期には1年まなびの森コースの「創造」において、計2回のガートン校とのオンライン交流を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・人権を確かめあう日の啓発文書を<u>10回</u>発行した。 ・多くの先生方に携わっていただき、特色のある啓発文書を発行できた。 ・啓発文書について、保護者からの返信が6月以降なかった。 	<p>は、中止前提ではなく前向きに考えて全学年で実施できるように考えていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子機器の発達により、リモートでの視聴や動画作成などが可能になり、新しい形の文化祭ができつつあるが、実施時期については気温が30度を下回る頃に検討したい。 ・芸術鑑賞は人権教育部と連携して11月に2回公演で実施したが、この時期での実施は生徒の負担軽減もあり、いい成果が得られた。 ・長年培ってきた姉妹校関係を今後も継続し国際交流を推進するために、オンライン交流を継続して実施できるような体制作りをする。 ・啓発文書について、保護者からリアクションしやすいような仕組みを考えていく。 ・啓発文書が、一過性のものにならないよう、新たな取組を考えていく。 	
--	---	---------------------------------	---	--	--

<p>3 たくましい心身の育成 - 「体」の育成</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動に関するアンケート結果は、<u>66.5%</u>と昨年度の61.3%からは上昇した。今年度は昨年度と違って、文化祭などの生徒会が活躍できる行事が縮小変更等があったもののほぼ実施でき、生徒会役員のメンバーも非常に活躍してくれたので、一般生徒に生徒会役員の活動は伝わったと思われる。 ・<u>クラブ加入率は、71.2%</u>と昨年度の75.0%からは減少している。新入生の入部時期に新型コロナウイルス感染拡大の時期が重なり入部率に影響があったかもしれない。 ・昨年実施できなかった部員集会は今年度は実施できた。 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートの結果が、昨年69.3%から<u>今年度74.4%</u>と上昇した。目標がほぼ達成された。こころと生活のアンケートを含め、計画していたアンケートがすべて実施できたことや、Classroomを用いたまめなコミュニケーションが役立つと考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育部主催で1回外部から講師を招いた校内研修会を実施した。 ・校外の研修については、オンラインの研修も含めて、可能な限り参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会役員を中心に、コロナ禍においても、アイデアを出しながら感染防止を徹底しつつ行事等を行えるようにしていく。また、行事だけでなく、生徒の規範意識やあいさつ励行の呼びかけなどに、生徒会役員を積極的に活用していきたい。 ・来年度当初も集会等は行えない可能性は大いにあるので、その方策を事前に用意したい。 ・心身に配慮を要する生徒の数が増えつつあると同時に、新型コロナウイルスで制約のある生活をしているストレスで、メンタルバランスを崩している生徒も少なからずいると思われるので、普段の声かけなどを多くしていく必要がある。 ・教職員のニーズを把握しながら、本校の実態に応じた研修内容を計画、実施していく。 ・日頃から、教職員に人権意識の啓発や情報の提供を行 	<p>部活動を通じての活性化が有効ではないか。特に野球部のテコ入れはお願いしたい。五條市外からの受験で定員を確保できるように頑張ってもらいたい。</p>
-------------------------------------	--	--	--	--	--	--

4 地域・社会に貢献する自立した生徒の育成						っていく。	
①地域と共にある学校づくりの推進 ○ 地域との連携を深める。(広報企画部)	・近隣小中学校への案内を充実させ、より多くの参加者を集める。 本年度<目標:130名以上>	B		・「五高スポーツ教室」「五高カルチャー講座」は実施できなかった。 「コットンプロジェクト」は、綿の植え付け、収穫のみを行った。 ・地域の行事が中止となり、ボランティアをする機会がなかった。	・今年度市内3中学の他、御所市(オンライン)や大淀中学、塾など、外へ出向いて説明する機会が増えたが、今後更に増やす。	五條高校を受験したと思う生徒が減ることは、将来的に望ましいことではないので、オープンキャンパスなど他校もやっている取組だけでなく、今のうちから小中学生を五高に呼ぶための五高ならではの内容があれば良いと思う。	
②人工芝グラウンド活用による諸活動の活性化 ○ 小・中学校、地域への開放を進め、人工芝グラウンドを積極的に活用していただく機会を設ける。(全分掌)	・近隣の小、中学校や地域へ広報を進め、本校への理解を高める取組を行う。 本年度<目標:受け入れ2回以上>	B		・5月に五條東小学校の6年生がグラウンドで活動した。	・今後も広報に努め、気軽に利用してもらえる体制を整える。		
③ホームページ等による効果的な広報活動の推進 ○ 学校ホームページや掲示板等を充実させる。(広報企画部)	・年間更新回数を増やし、情報のタイムリーな発信と行う。 本年度<目標:200回以上>	A	B	・1月19日現在191回更新。特設ホームページも作成した。修学旅行では日々の更新を行った。また文化祭の様子を配信した。	・担当分掌と連携し、学校行事の様子を発信する機会を増やす。		
○ 中学生やその保護者を対象に五條高校の魅力の情報発信する。(広報企画部)	・これまで以上に中学校や保護者へ情報発信し、より多くの参加者を募る。 本年度<目標:350名以上>	B		・『学校紹介』を、中学生がより興味をもてるものに刷新した。 ・オープンキャンパス参加者172名、e-オープンスクール参加者127名(1月19日現在)である。	・学校ホームページや中学校訪問で、オープンキャンパスやe-オープンスクールの参加者をさらに募る。		
5 学校改善のための組織的取組							
①コミュニティ・スクール(学校運営協議会)の取組による ○ 学校改革と諸活動の最適化(全分掌)	・地域と学校の連携、協働の推進 ・地域の事業所でのインターンシップ体験による適切な進路選択 ・地域の方と共に行う教育活動 ・研修会については、全体・学年ごとに合わせた総数 本年度<目標:5回以上>	C		・コロナ禍ということもあり、地域での活動はほぼ行えなかった。 ・学校運営協議会の委員に授業等を見学していただく予定であったが、コロナ禍により実現できなかった。	・過去の活動等を踏まえ、できることから再開していきよう五條市内の学校等へ本校への要望等を確認する。		
②個々の生徒の強みを生かした進路実現における方策の開発 ○ 進路指導に関する情報収集と情報提供を行い、教員の指導力を高める。(進路指導部)	・進路に関する配布物・回覧物による情報提供 本年度<目標:10回以上>	B	B	・講師派遣による研修が実施しにくくなり、対面研修は2回であった。WEB配信や資料による個別研修を案内することが増えた。 ・配布物、回覧物による情報提供は情報雑誌12回、校外研修会5回、その他進路情報15回であった。	・今年度は、何とか対面研修の機会を確保できたが、WEB配信やオンラインが多くなった。やはり対面が一番良いと考えるが、他の方法についても検討する。 ・入試改革が進んでおり、今後も進路情報の提供に努める。		

各分掌等の評価計画

分掌等	具体的目標	具体的方策	評価の指標等	自己評価	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価	
総務部	2-① ○ 国際理解を促進する。	・オーストラリア・ガートン校との交流をオンラインによって行う。	・ガートン校と協力して、オンライン交流・協働学習を行う。 本年度<目標:1回以上>	A	・夏期休業中にESS部の活動として、2学期には1年まなびの森コースの「創造」において、計2回のガートン校とのオンライン交流を行った。	・長年培ってきた姉妹校関係を今後も継続し国際交流を推進するために、オンライン交流を継続して実施できるような体制作りをする。		
	○ 育友会・同窓会との連携を強化する。	・育友会・同窓会との連携を密にし、学校運営に対する協力・援助を求める。 ・育友会の諸行事の活性化を図る。	・育友会・同窓会の定例会に参加し、機会に応じて学校との交流 ・感染症対策に配慮して、諸行事を実施する。 本年度<目標:2回以上>	A	A	・育友会役員会を3回、企画委員会を2回開催して意見交流を図り、良好な協力・支援関係を構築できた。 ・家庭教育部の講習会や文化祭支援など、コロナ禍でも可能な活動を2回以上実施することができた。 ・育友会役員をしていただいている方を探すが年々難しくなっている。	・育友会役員会、企画委員会HR委員会の在り方を工夫し、さらに学校運営に協力や支援をしていただけのような体制作りをする。	
	○ 奨学金受付事務を円滑に実施する。	・生徒に各種奨学金の案内を行い、受付事務を円滑に進める。	・3年進学希望生徒に対して、日本学生支援機構奨学金及び各種奨学金の説明会の実施 本年度<目標:年5回以上>	A	・5回以上の説明会及び個別説明を行い、日本学生支援機構奨学金については、161名の予約手続きを行った。	・今後もきめ細かい受付事務を実施するのみならず、将来を見通した奨学金の利用ができるような指導に努める。		

教務部	1-① ○ 学習活動の工夫を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の基礎学力の向上を図る。 生徒の実態に応じた授業展開、教材開発を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート「五條高校で行われている授業や課題、小テスト等に取り組むことで、うまく学習を進めることができている」 本年度<目標:70%以上> 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート「うまく学習を進めることができている」が76.4%、「内容がよく理解できそうである」が74.3%（1学期末）。 保護者アンケート「授業の内容や進め方に満足している」80.6%（2学期末）。 3項目とも目標を達成した。 一部の授業で習熟度別・少人数指導を導入しているが、生徒の多様化・学習指導要領の変化に対応するため、更なる授業改善を含めた工夫も必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者の授業満足度を向上させるため、身に付けさせたい力を明確にし、更に授業改善に取り組む。 生徒の進路実現を念頭におき、生徒の主体的な学びにつなげる授業展開、課題、小テスト等、学力養成の方策を各教科で検討する。また、新学習指導要領やBYODに備え、研究を重ねる。 本校の学習活動について、ホームページ等を通じて保護者に周知する。 	
	1-② ○ 授業と評価の改善、指導力向上を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の研究授業を1回以上行い、2教科（輪番制）で指導主事を招いて実施する。 指導主事を招いた研究授業では、研究協議に教科の教員が全員参加できるよう努める。 他教科の任意の授業を参観する期間を設け、参観希望授業の集約や調整、時間割変更を確実に進行。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートにおいて、1学期末の評価より2学期末の評価が向上した教員の割合を増やす。 本年度<目標:70%以上> 	A		A	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートにおいて、1学期末の評価より2学期末の評価が向上した教員の割合が76.0%であった。 教員アンケート「授業改善に向けた取組が活発に行われている」が97.4%であった。 3項目とも目標を達成した。 指導主事を招いた研究授業や各教科による授業公開のほか、公開授業も学期に1回以上行い、教科を超えた授業研究を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業、他教科の授業参観については、主体的・対話的で深い学び（いわゆるアクティブラーニング）や観点別評価を視野に入れながら、次年度も継続する。 授業改善に向けた取組が更に活発になるよう、情報収集及び研修に努める。
			<ul style="list-style-type: none"> 教員アンケート「五條高校では、研究授業など、授業改善に向けた取組が活発に行われている」 本年度<目標:90%以上> 	A				
	生徒指導部	3-① ○ 生徒会活動や部活動を積極的に奨励し、生徒の主体的活動を促進する。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部の活動の活性化を図り、魅力ある実践活動を目指す。 部活動加入に向けた取組を工夫し、部活動加入率を向上させる。 各部に所属する生徒一人一人の所属感、使命感、活動意欲の高揚を図るため集会を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート「五條高校の生徒会活動は活発で、関心もてる内容である」 令和2年度 61.3% → 本年度<目標:80%以上> 部活動加入の増加 令和2年度 75.0% → 本年度<目標:80%以上> キャプテン・部長会議の複数回開催 		B	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動に関するアンケート結果は、66.5%と昨年度の61.3%からは上昇した。今年度は昨年度と違って、文化祭などの生徒会が活躍できる行事が縮小変更があったもののほぼ実施でき、生徒会役員のメンバーも非常に活躍してくれたので、一般生徒に生徒会役員の活動は伝わったと思われる。 クラブ加入率は、71.2%と昨年度の75.0%からは減少している。新入生の入部時期に新型コロナウイルス感染拡大の時期が重なり入部率に影響があったかもしれない。 昨年実施できなかった部員集会は今年度は実施できた。
3-② ○ 教育相談体制を確立する。		<ul style="list-style-type: none"> 教育相談体制のもと支援を必要とする生徒（不登校傾向を示す生徒や特に困難な課題をもつ生徒等）やその保護者を対象に、外部機関と連携を図り、カウンセリングを受ける機会を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 悩みを抱える生徒の早期発見、早期対応、予防的な取組の実践 当該生徒対象にケース会議を開き、対応を検討する。 生徒アンケート「五條高校の先生は親身になって接してくれ、気軽に相談できる」 令和2年度 69.3% → 本年度<目標:75%以上> 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートの結果が、昨年69.3%から今年度74.4%と上昇した。目標がほぼ達成された。こころと生活のアンケートを含め、計画していたアンケートがすべて実施できたことや、Classroomを用いたまめなコミュニケーションが役立つと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 心身に配慮を要する生徒の数が増えつつあると同時に、新型コロナウイルスで制約のある生活をしているストレスで、メンタルバランスを崩している生徒も少なからずいると思われるので、普段の声かけなどを多くしていく必要がある。 		
○ 基本的な生活習慣を確立する。		<ul style="list-style-type: none"> 挨拶、言葉遣い、身だしなみ、時間を守ることなど、基本的な生活習慣を確立させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間欠席総数・・・昨年度比約10%以上の減少 令和2年度 2,579回 → 本年度<目標:2,320回未満> 年間遅刻総数・・・昨年度比約10%以上の減少 令和2年度 872回 → 本年度<目標:780回未満> 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 年間欠席日数・・・令和3年度は1766回（1月13日時点）で数字上は目標達成ペースで推移しているが、実際には発熱などで出席停止等の措置がとられているなどの要因があると思われるので、微熱や体調不良による欠席は減少しているわけではないと思われる。 年間遅刻回数・・・772回（1月13日時点）なので、昨年度に引き続き目標回数を超えてしまうと思われる。 マスクの着用が長期化し、挨拶を 		<ul style="list-style-type: none"> 今後も新型コロナウイルスの感染状況は、すぐには改善されないとと思われるので、引き続き感染防止対策の徹底を図りつつ、体調管理の徹底を呼びかけていく必要がある。同時に、メンタルヘルスの面からも生徒の健康管理に注意するとともに、生活リズムに変化がないかを注視していく必要がある。 教員の方から積極的に挨拶

					<ul style="list-style-type: none"> 含めて対面のコミュニケーションが少なくなっている傾向が強かった。2学期末に向けて多少改善の傾向は見られたものの、冬季休業明けには元に戻ってしまった感がある。 服装については第1ボタンが外れている生徒が目立つ。特に女子に多いように見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> をすることを継続していく。 第1ボタンだけでなく、化粧、スカート丈などについても、全教員が授業の始め等に、意識して見ていく必要がある。化粧落としを常時教室に置くようにしたい。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全指導の徹底を図るとともに規範意識を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 街頭での交通安全指導を実施するとともに、原付免許取得者や自転車通学生徒に対して各種集会を通して安全運転の意識を高める。事故・違反とともに絶無を目指す。 ホームルーム活動を通して、規範意識や人を思いやる態度を育成し、豊かな人間関係を築かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 原付免許取得者集会、単車通学生集会、単車実技講習会、自転車通学生集会をそれぞれ開催する。 事故件数 <u>令和2年度4件 → 本年度<目標:0件></u> 違反件数 <u>令和2年度8件 → 本年度<目標:0件></u> 生徒アンケート「あなたは服装や髪型など学校の規則や決まりをきちんと守っていますか」 <u>令和2年度95.5% → 本年度<目標:98%以上></u> 	B	<ul style="list-style-type: none"> 事故件数は1月15日時点で3件で、手首を骨折した生徒もいた。 「あなたは服装や髪型など学校の規則や決まりをきちんと守っていますか」のアンケート結果は95.2%だった。 今年度は、悪天候により、単車通学生の単車実技指導はできなかったが、五條警察署の協力により講話やDVD視聴などの講習は行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの生徒は規則を守ろうという意識があるが、一部の生徒の意識が低いので、継続的に指導していく必要がある。 	
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> 1-③ ○ 計画的・系統的な進路指導を行う。 ○ 望ましい勤労観、職業観を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 集会や説明会等を行うことで、望ましい勤労観、職業観を含め、自己の進路について広く深く考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 集会、説明会等の実施 <u>本年度<目標:10回以上></u> 上記実施状況について、ホームページによる情報発信 <u>本年度<目標:10回以上></u> 	B	<ul style="list-style-type: none"> 校内の集会、説明会、講習会等を合わせて進学7回と就職5回実施した。校外の進学説明会は、オンラインや実施されても規模が縮小された。冬のインターンシップに5名が参加した。 進路行事等についての情報発信が不十分であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的、系統的な進路指導を行うために「夢の扉」を活用する 進路カルテや調査を利用して生徒の進路志望の把握に努めることで、集会や説明会の内容を検討する。 進路行事終了後、速やかに情報発信できるように部内で連携をとる。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 1-③ ○ 生徒一人一人の進路の実現に向けて、明確な目的意識をもって学習に取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路決定に向けたホームルーム活動や相談活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート(第3学年)「自分の希望する進路実現ができた」 <u>令和2年度93.3%(分母:進路決定者) → 本年度<目標:90%以上></u> 生徒アンケート(全学年)「五條高校では、生徒一人一人の進路に応じて、丁寧な指導が行われている」 <u>令和2年度81.6% → 本年度<目標:85%以上></u> 各学年進路講習の企画立案総数 <u>本年度<目標:5回以上></u> 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 3年生で「希望する進路実現ができた」生徒は96.0%であった。 「丁寧な進路指導が行われている」は85.8%であり目標を達成することができた。 各教科、学年の協力で予定の回数を実施できた。参加者増に向け工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科、各学年との連携を深め、生徒の志望先にあった適切な指導を検討する。 進路閲覧室の利用を促進し、進路相談が気軽にでき、落ち着いて自習ができる環境づくりに努める。
	<ul style="list-style-type: none"> 5-② ○ 進路指導に関する情報収集と情報提供を行い、教員の指導力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導に関わる職員研修の機会を適宜もつ。 進路指導に関する情報提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修会については、全体・学年ごとに合わせた総数 <u>本年度<目標:5回以上></u> 進路に関する配布物・回覧物による情報提供 <u>本年度<目標:10回以上></u> 	B		<ul style="list-style-type: none"> 講師派遣による研修が実施しにくくなり、対面研修は2回であった。WEB配信や資料による個別研修を案内することが増えた。 配布物、回覧物による情報提供は情報雑誌12回、校外研修会5回、その他進路情報15回であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、何とか対面研修の機会を確保できたが、WEB配信やオンラインが多くなった。やはり対面が一番良いと考えるが、他の方法についても検討する。 入試改革が進んでおり、今後も進路情報の提供に努める。
人権教育部	<ul style="list-style-type: none"> 2-② ○ 生徒一人一人の人権意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「人権を確かめあう日」の啓発文書の文案作成を各分掌に依頼し、多様な視点から人権について考えさせる啓発文書を配布する。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の「人権を確かめあう日」に生徒・保護者向けの啓発文書を発行する。 <u>本年度<目標:10回以上></u> 	A		<ul style="list-style-type: none"> 人権を確かめあう日の啓発文書を10回発行した。 多くの先生方に携わっていただき、特色のある啓発文書を発行できた。 啓発文書について、保護者からの返信が6月以降なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 啓発文書について、保護者からリアクションしやすいような仕組を考えていく。 啓発文書が、一過性のものにならないよう、新たな取組を考えていく。
	<ul style="list-style-type: none"> 3-② ○ 職員一人一人の人権意識の資質向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育推進に関する職員研修会を実施する。 職員に研修会等の案内及び参加を依頼する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年1～2回外部から招聘した講師による研修会の実施 <u>本年度<目標:2回以上></u> 高人教など各種団体の主催する研究大会や学習会などへ積極的に参加する。 	B		<ul style="list-style-type: none"> 人権教育部主催で1回外部から講師を招いた校内研修会を実施した。 校外の研修については、オンラインの研修も含めて、可能な限り参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員のニーズを把握しながら、本校の実態に応じた研修内容を計画、実施していく。 日頃から、教職員に人権意識の啓発や情報の提供を行っていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人権教育・道徳教育の充実を図り、一人一人の人間としての在り方生き方を大切 	<ul style="list-style-type: none"> 人権ホームルームについては、生徒の実態に応じてホームルーム毎に指導内容を 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな人権教育年間計画を作成する 生徒アンケート「五條高校では、授業やホームルームにおいて人権問題について考える機会が多い」 		A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート「五條高校では、授業やホームルームにおいて人権問題について考える機会が多い」 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、本校の実態やニーズに応じた人権教育の取組を考えていく。

	にする生徒を育てる。	工夫する。 ・道徳教育の全体計画を作成し、道徳教育を推進する。	令和2年度 83.1% → 本年度<目標:90%以上> ・道徳教育全体計画に基づき実施し、成果を検証する。	A	において、 <u>今年度94.3%</u> に増加した。 ・各学年の人権ホームルームについて、実施内容や年次を工夫して実施した。	
	○ 人権系の力量を高める。	・全学年のホームルームから人権係を2名ずつ選出し、人権意識向上のための活動を行う。 ・人権系の生徒を対象に人権にかかわる講習会を開催する。	・「人権を確かめあう日」の啓発文書配布時に、係生徒が全校生徒に向けて、その趣旨を放送によりアピールする。 ・ボランティア活動への積極的な参加。 ・人権に関わる講習会等を実施し、クラスで人権教育の中心として活動できる力量を育てる。 ・文化芸術鑑賞会の司会を人権係が担当する。	A	・人権を確かめあう日の放送アピール、文化芸術鑑賞会での司会を人権係が務めた。 ・手話講習会を2年ぶりに開催し、人権係を中心に手話の基礎について学んだ。 ・人権メッセージを人権係が考え、校内掲示を実施した。	・人権係が主体的に取り組んでいけるような仕組みを考えていく。 ・人権系の活動を通して、学校全体に活動が還元されるような仕組みを考えていく。
文化 図書部	1-② ○ 読書活動の活性化を図る。	・生徒の読書の機会を増やし、自ら読書に取り組み、自らの生活を豊かなものにしようとする態度を養う。 ・五條市立図書館との連携を図る。	・「読書の時間」を(月)と(水)のSHRに7分設定し、考査後1週間は、全ての日で実施。読書の習慣を身に付けさせる取組を進める。 ・五條市立図書館との合同企画を検討する。	B	・例年学級文庫を各クラスに設置しているが、感染防止のため、今年度も本は各自で用意することとした。読書週間の初日や読書HR時には貸出が集中し、貸出業務が時間内に間に合わないことがあった。 ・五條市立図書館とのコラボで、合同展示を実施した。	・春期休業中に課している読書感想文に苦労している生徒が増えている。書くことが苦にならないよう読書量を増やす指導を継続する。
	2-① ○ 文化行事の充実を図る。	・文化行事の実施により、生徒の自主性や創造性を伸ばし、生徒自らが文化的な活動に取り組む意欲を醸成する。	・今年度は、コロナ禍での新しい形の文化祭を検討し実施する。 ・カルタ大会、おはなし会についても新しい形を模索する。可能な状況であれば実施する。	A	・コロナウィルスの感染防止のため、例年とは違う文化祭となった。体育館行事には3年生のみ入場し、他学年は教室でカメラ中継による視聴を行った。また2年生はクラス動画を作りオンラインで各教室に配信した。3年生模擬店は物品販売に改め、学年別での参加としたが、制約のある中で生徒は有意義な時間を過ごすことができた。 ・カルタ大会はゲームソフトを使っ ての競技とした。	・電子機器の発達により、リモートでの視聴や動画作成などが可能になり、新しい形の文化祭ができつつあるが、実施時期については気温が30度を下回る頃に検討したい。 ・芸術鑑賞は人権教育部と連携して11月に2回公演で実施したが、この時期での実施は生徒の負担軽減もあり、いい成果が得られた。
	○ 図書館利用の促進を図る。	・図書館報や図書館だよりを発行し、図書館利用を促進する。	・安全に利用するためにルールやマナーの向上を図る。 令和2年度 利用者延べ6,716人 貸出冊数1,395冊 数値目標は掲げず、感染予防対策を徹底した利用を促す。	B	・コロナウィルスの感染防止のため、図書館ではパーティションの設置、手指消毒、換気を行った。また新生生に対するオリエンテーションも説明のみにし、その場での本の貸し出しは中止した。しかしながら図書館利用者は12月末日までで延べ5,383人と、前年同時期よりも下回ったが、貸し出し冊数は1,763冊となり、前年よりも上回った。 ・『図書館便り』『図書館報』の発行は順調であった。	・感染予防対策のため換気設備の充実が必要である。また返却本の除菌のために、返却ポストに加え、除菌ボックスの設置等が急がれる。
保健 体育部	3-① ○ 体育活動に積極的に取り組む姿勢を養う。	・体育活動を通じて生徒の心身の健全な発育と体力の向上(脚力・忍耐力)を図るとともに、生徒を主体とした体育活動を実施する。	・球技大会、体育大会、耐寒金剛登山を実施する。 ・体育大会種目を生徒の希望をふまえて充実させる。 ・各行事の参加率 <u>本年度<目標:98%以上></u>	B	・本年度は、例年実施している体育行事を新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため球技大会、体育大会は学年別で実施した。また、耐寒金剛登山も形を変えて、耐寒ウォーキングと銘打って実施しようとしたが、オミクロン株拡大のため、中止せざるを得なかった。 ・学年別で実施した球技大会と体育大会での参加率は97.5%と盛り上がった大会となった。	・来年度においても新型コロナウイルス感染症に関しては、中止前提ではなく前向きに考えて全学年で実施できるように考えていきたい。
	○ 体力の向上を図る。	・体育の授業だけでなく、自らの生活の中で体力向上を目指した運動の習慣を確立させる。(長期の休業中に何らかのトレーニングをさせる。)	・4月の体力測定、スポーツテストの結果を踏まえ全学年男女で前年度の数値アップ <u>本年度<目標:8項目中5項目以上数値アップ></u>	B	・今年度は予定通り一学期に実施できた。1年生については中学2年、3年生とコロナの関係で体育の授業自体しっかりと学習できず、今年度の体力テストにおいても著しく低い傾向にあった。2年生については、クラブ員以外の生徒の体力の低下は顕著で、全学年で見て	・新型コロナウイルス禍の中、教科指導(特に実技)においては体力向上に繋がるように一層努めていきたい。 ・本年度の運動クラブ参加率は男子54.3%、女子25.4%で毎年減少傾向にあり、体力

						も本年度目標としていた数値には遙かに及ばず、ほとんどの種目で昨年度の数値よりも下回っていた。	向上を目指す上でも加入率を上げることが望まれる。 ・部活動の活性化や日々の生活での運動習慣の意識を高めることが、学校生活の向上に繋がる。
環境整備部	○ 校内美化を推進する。	・日々の清掃活動により校内美化を推進する。 ・大掃除を実施する。 ・校舎内外の施設及び設備を大切に使用する。	・保護者アンケート「五條高校では、清掃が行き届いており、校内がきれいに整備されている」 令和2年度 36.9% → 本年度<目標:50%以上>	B	B	・保護者アンケートでは「そう思う」44.6%、「どちらかといえばそう思う」46.2%で、「そう思う」が目標に届かなかった。来年度は、50%以上の目標達成を目指し清掃活動等をより充実したい。	・清掃活動の充実と環境整備・美化の意識の向上を図る。 ・各学期の節目行事、考査後の清掃計画・大掃除の実施を行う。
	○ 美化委員会活動を充実させる。	・当番制で花の水やり活動を進める。 ・通学路美化活動を実施する。 ・ゴミの分別を徹底する。	・通学路清掃の実施 本年度<目標:学期に1回実施> ・花の水やり 本年度<目標:毎日実施> ・花の植え替え 本年度<目標:年2回実施>	B		・通学路清掃は3学期に美化委員のみで実施。 ・花の植え替えは、年2回の実施の目標を達成。花の水やりは、美化委員が交代で年間を通し実施することが出来た。	・次年度も季節の花の栽培により、校内に安らぎと憩いの空間を作る活動をより充実させたい。
	○ 防災教育を推進する。	・避難訓練等を実施することにより、防災意識を高め、災害から身を守る取組を進める。	・火災や地震等を想定した避難訓練を実施する。 ・防災についての研修を深める。	B		・2学期にコロナ禍での感染拡大防止を考慮しながら避難訓練を実施した。 ・地震を想定したシェイクアウト訓練を2回実施。	・コロナ禍での避難訓練等の効果的な実施についての検討。 ・防災教育の充実を図る。
広報企画部	4-① ○ 地域との連携を深める。	・「五高スポーツ教室」「五高カルチャー講座」「コットンプロジェクト」等を実施する。 ・地域の行事に参加・貢献する。	・近隣小中学校への案内を充実させ、より多くの参加者を集める。 本年度<目標:130名以上> ・校内で生徒のボランティアを募り、より多くの参加生徒を参加させる。	B	B	・「五高スポーツ教室」「五高カルチャー講座」は実施できなかった。「コットンプロジェクト」は、綿の植え付け、収穫のみを行った。 ・地域の行事が中止となり、ボランティアをする機会がなかった。	・今年度市内3中学の他、御所市（オンライン）や大淀中学、塾など、外へ出向いて説明する機会が増えたが、今後更に増やす。
	4-③ ○ 学校ホームページや掲示板等を充実させる。	・学校ホームページの充実を図り、保護者等にリアルタイムで学校の状況を伝える。	・年間更新回数を増やし、情報のタイムリーな発信 本年度<目標:200回以上>	A		・1月19日現在191回更新。特設ホームページも作成した。修学旅行では日々の更新を行った。また文化祭の様子を配信した。	・担当分掌と連携し、学校行事の様子を発信する機会を増やす。
	4-③ ○ 中学生やその保護者を対象に五條高校の魅力を情報発信する。	・学校紹介パンフレット等の作成と発送を行う。 ・オープンキャンパスを開催する。	・『学校紹介』（4,000部）を刷新し、より魅力的なものとする。 ・これまで以上に中学校や保護者へ情報発信し、より多くの参加者を募る。 本年度<目標:350名以上>	B		・『学校紹介』を、中学生がより興味をもてるものに刷新した。 ・オープンキャンパス参加者172名、e-オープンスクール参加者127名（1月19日現在）である。	・学校ホームページや中学校訪問で、オープンキャンパスやe-オープンスクールの参加者をさらに募る。
第1学年	○ 規範意識と基本的な生活習慣を確立させる。	・中学校との違いを認識し五條高校の生徒としての自覚をもたせ、挨拶の励行と遅刻や欠席をせず授業に集中して取り組む姿勢を養う。	・遅刻の各クラス別年間総数の平均 本年度<目標:15回未満> ・欠席の各クラス別年間総数の平均 本年度<目標:100日未満>	A	A	・2学期末時点でクラスあたりの遅刻総数の平均は15回、欠席総数の平均は57日であった。 ・心身の調子を崩し、登校に支障が出たり、挨拶できない生徒がいた。	・基本的な生活習慣を確立させるための指導を、強化する。 ・早期より仲間作りに配慮し、学校が楽しいと感じさせるような取り組みを考える。
	○ 部活動への参加を勧める。	・学習と部活動の両立を目指し、学校生活を意欲的に過ごす姿勢を育てる。	・部活動の加入率 本年度<目標:80%以上>	A		・部活動加入率は、80.5%である。 ・コロナウイルス流行(第4波・5波)の影響で、活動が制限されたりもしたが、積極的な加入がみられた。	・年度途中に退部することなく、3年間継続できる環境作りに努める。
	○ 基礎学力を充実させる。	・授業を最大限に活用し、家庭学習の習慣を身に付けさせる。	・平日に家庭学習を毎日する生徒の割合 本年度<目標:70%以上>	B		・まったく家庭学習をしていない生徒が、12月時点で29%と7月時点より9ポイント増加している。	・まずは授業に集中させ、基礎学力の定着に努める。 ・小テストを有効利用する。
	○ 進路目標を明確化させる。	・自らの興味・関心に基づき、適性を探り、進路についての考えを深め、確固たる進路目標をもたせる。	・LHR等の時間を利用し、第1学年の間に進路目標が定まった者の割合 本年度<目標:80%以上>	B		・進学や就職など何らかの形で進路目標を定めている生徒は78%である。 ・分野別進路ガイダンスでは、一生懸命取り組む姿があった。	・次年度も外部組織・団体などにより、できるだけ新鮮な話題を提供することで、進路への意識を高めたい。
第2学年	○ 規範意識と基本的な生活習慣を確立させる。	・中堅学年としての自覚をもたせ、遅刻や欠席をせず、	・遅刻の各クラス別年間総数の平均 本年度<目標:15回未満>			・2学期末時点で遅刻回数平均は52回、欠席日数平均も111日と目標	・基本的な生活習慣を再確認させ、次年度最高学年として

		授業に集中して取り組む姿勢を養う。 ・挨拶、言葉遣い等の礼儀作法を徹底させる。	・欠席の各クラス別年間総数の平均 本年度<目標:80日未満>	B		に大きく届かなかった。 ・自律神経不調や人間関係に悩む生徒が生活習慣を乱し、遅刻・欠席を増やす傾向がある。	の自覚を持たせる。 ・日々の健康チェックやカウンセリング活用により、生活改善を促す。
	○ 基礎学力の定着を図り、具体的な進路目標を設定させる。	・課題の提出、小テストに向けての準備を徹底させ、自主学習、家庭学習を習慣付ける。 ・主体的に自己の進路について考えさせ、より具体的な進路目標を設定させる。	・平日における授業以外の学習時間が1時間以上である生徒の割合 本年度<目標:60%以上> ・第2学年の間に志望校、志望職種が定まった生徒の割合 本年度<目標:80%以上>	B	B	・平日、授業以外に一時間以上学習している生徒の割合は15%にとどまる。 ・すでに進路の方向性を決定している生徒は95%であるが、学部学科など、より具体的に考えさせ、目標を明確にさせる必要がある。	・入試直前に焦らないよう、無理のない学習計画を立てさせ、日々継続的に取り組ませる。 ・進路指導室を積極的に活用させ、将来について自ら切り拓く力をつけさせる。
	○ たくましい心身を備え、充実した高校生活を送らせる。	・自他を尊び、五條高校の一員として誇りをもたせる。	・学校に来ることが楽しいという生徒の割合 本年度<目標:80%以上>	A		・80%以上の生徒が学校が楽しいと感じている。その反面、人間関係に悩み、転学に至る生徒もいた。	・コロナ禍でも可能な限り行事を行い、良好な人間関係を構築させる。
第3学年	○ 規範意識と基本的な生活習慣を確立させる。	・社会人として必要な挨拶、言葉遣い等の礼儀作法、判断力、規範意識を身に付けさせる。また、残り少ない高校生活を無駄にせず、充実した毎日を過ごさせる。	・最高学年としての自覚と責任をもち、時と場に応じた言動の育成 ・遅刻の各クラス別年間総数の平均 本年度<目標:15回未満> ・欠席の各クラス別年間総数の平均 本年度<目標:65日未満>	C		・学年末で、クラス当たりの遅刻総数の平均は57回、欠席総数の平均は90回であった。特定の生徒の欠席・遅刻が多い。 ・挨拶しない者、身だしなみの乱れが多くなった。	・指導を要する生徒に対して、教員全体での指導が必要である。
	○ 自主学習の定着を図る。	・卒業後の進路を見据えて、授業、進学講習等に能動的に取り組ませるとともに、家庭においても自主的な学習を定着させる。	・平日に家庭学習を毎日する生徒の割合 本年度<目標:80%以上>	B	B	・平日に少しでも家庭学習をする生徒は、7月の生徒アンケートで69.7%、12月の同アンケートでは55.5%であった。進路が決定するにつれて学習しない者が増えた。	・小テストや課題提出を含めて、学習習慣を確立させる指導が必要である。
	○ 進路目標を決定させ、その実現に向けて取り組ませる。	・具体的な進路目標を主体的に決定し、その実現に向けて効果的、能動的に取り組ませる。 ・一人一人の進路に応じて丁寧な指導を行う。	・進路決定率 本年度<目標:95%以上> ・生徒アンケート・保護者アンケート「一人一人の進路に応じて、丁寧な指導が行われている」 本年度<目標:75%以上>	A		・今後受験する者も含めると、ほとんどの生徒の進路が決定した。 ・生徒アンケートの結果「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて7月調査76.6%、12月調査84.6%であった。	・様々な進路希望の生徒がおり、様々な入試形態があるため、一人一人の希望に応じた丁寧な指導が必要である。